

本スライドは、例会で使用したスライドを
抜粋した上で、まとめ直しています。

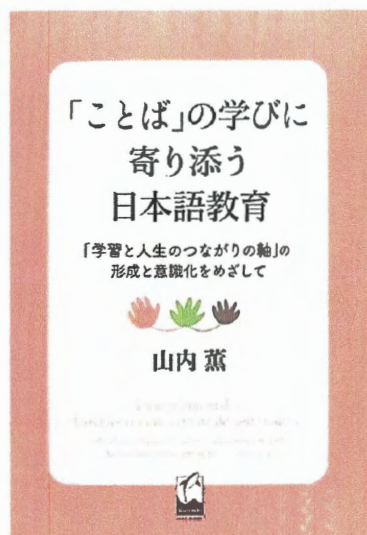
言語文化教育研究学会 第86回例会 [2022年6月12日 15:00-17:00]

「ことば」の学びに寄り添う日本語教育

— 「学習と人生のつながりの軸」の

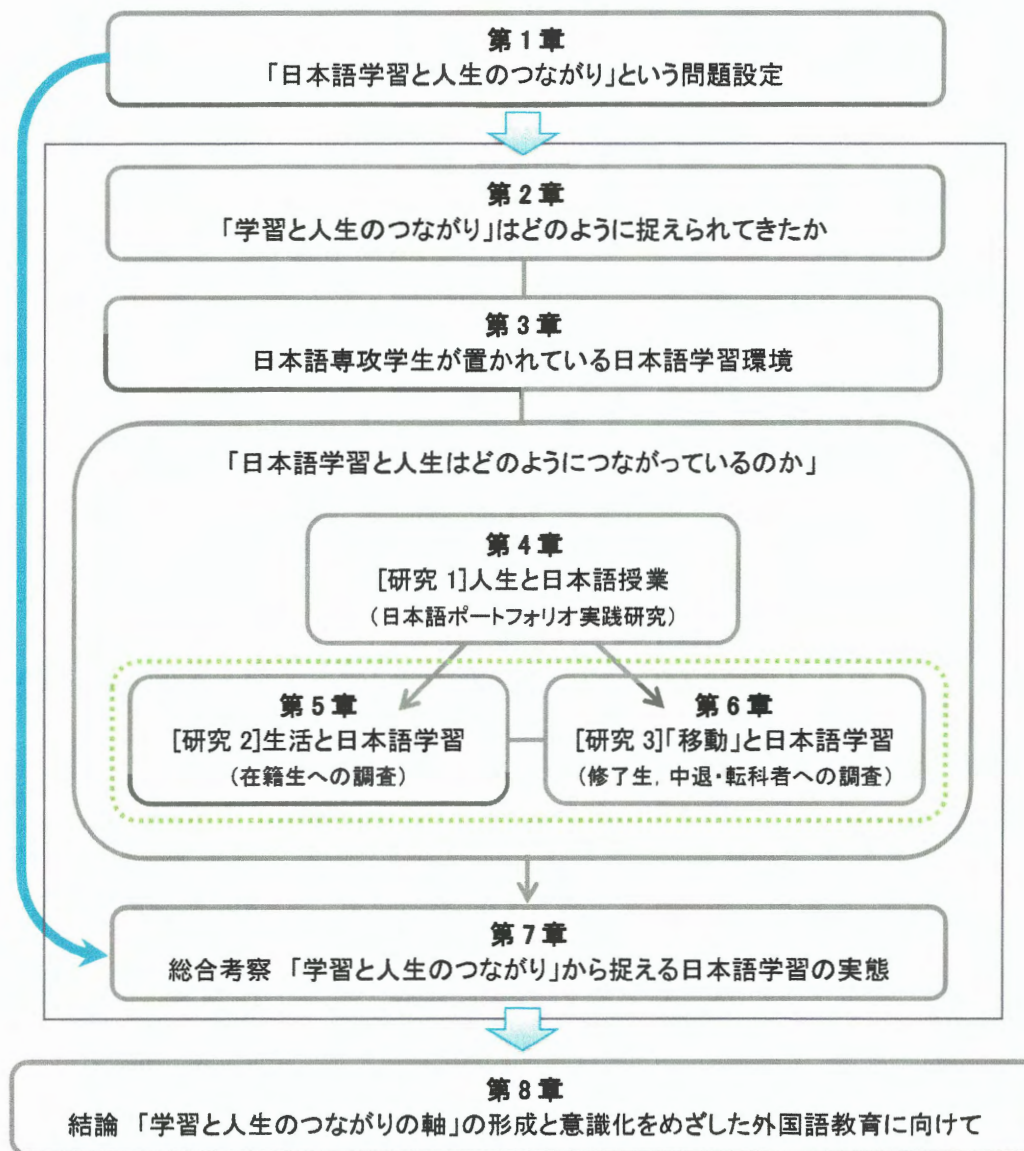
形成と意識化をめざして—

山内 薫



独立行政法人日本学術振興会 令和3（2021）年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費〈学術図書〉，課題番号21HP5053，研究代表者：山内薫）

目次



問題意識 (外国語として日本語という「ことば」を学ぶということ)

日本語専攻学生

フランスの国立大学「外国語・外国文学・外国文化コース」

日本語学習

= 将来において「使うあてのない外国語学習」

(将来の就業／学業において、使用する可能性が低い「ことば」を学ぶこと)

↑
背景

◆ 日本語専攻学生が置かれている 社会的文脈 (距離的制約・労働市場の需要の低さ)

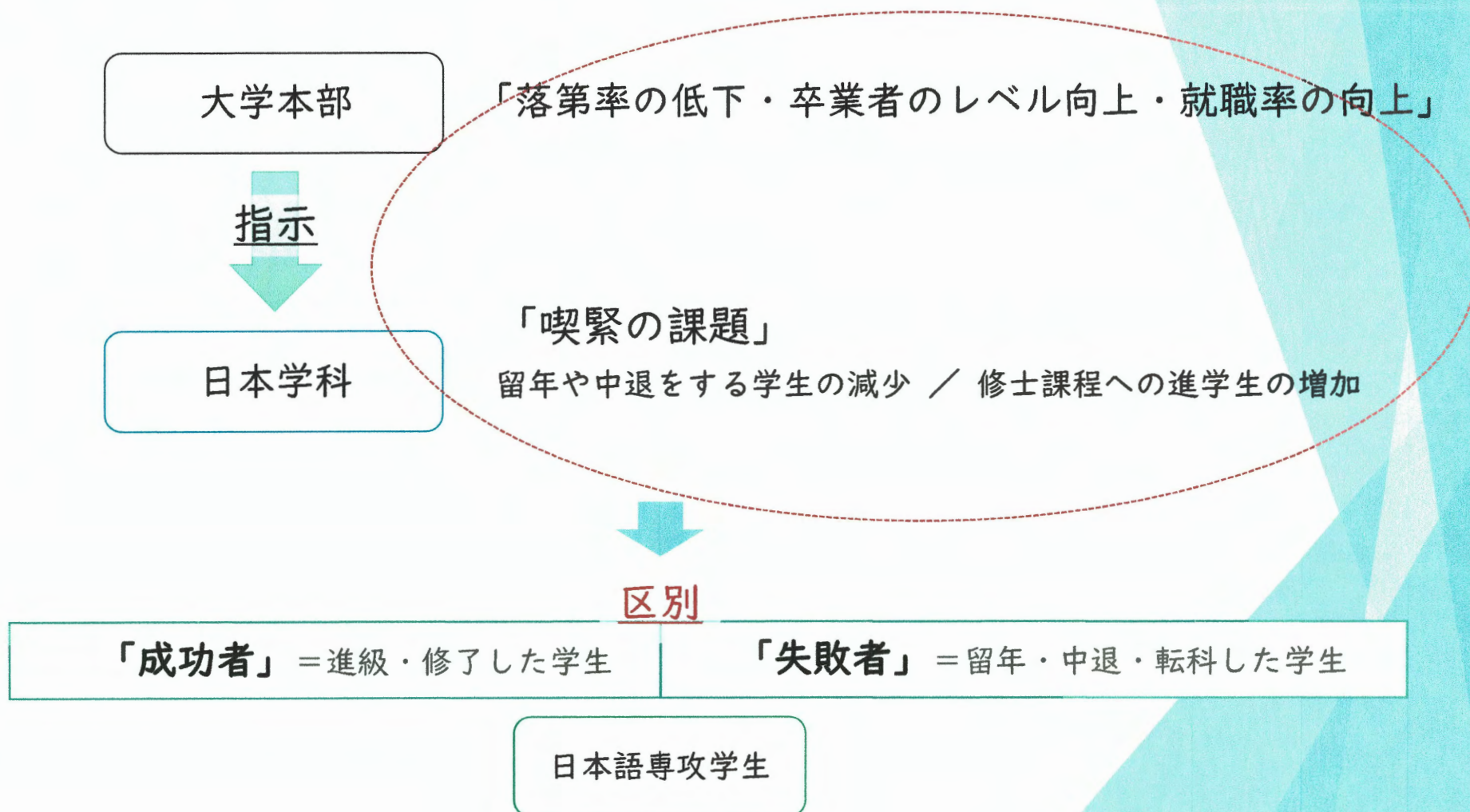
◆ 日本語専攻学生と日本学科における 学習目的の相違

(「学びたい日本語学習」と「提供される日本語学習」の異なり)

「使うあてのある外国語学習」

- 英語専攻学生
- フランスの国立大学「応用外国語コース」で日本語を学ぶ学生
- 東アジア地域の日本語学習者

問題意識 (外国語として日本語という「ことば」を学ぶということ)



問題意識（「ことば」を学ぶということ — 「生きる活動」という視点—）

〔生涯教育論〕

「恒常的に新しいことを学習する」なかで、成功も失敗も、人生における「一連の試みのうちのひとつ」
(ラングラン, 1999/1989, pp.13-14)

→ 日本語専攻学生は、日本語学習という豊かな経験を得ており、成功者にも失敗者にもなりえない。

「加入儀式」によって特徴づけられる教育システムにおいては、成功者は失敗者から切り離される。
(ラングラン, 1999/1989, pp.13-14)

→ 学校教育制度（「成功者と失敗者」という区別を生む要因）に対する強い批判。 学校教育から離れ、学校教育以外の「継続的な教育過程」で学習し続けることで、成功や失敗の概念から解放される。

問題意識（「ことば」を学ぶということ－「生きる活動」という視点－）

〔生涯教育論〕

移動性という観点の欠如

生涯学習は学校教育以外の
「継続的な教育過程」で行われる

異なる立場

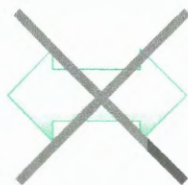
「ことば」＝「生きる活動」
言語学習＝「生きる活動」を学ぶ営み

人は、それぞれが生きている空間（日常の生活におけるありとあらゆる空間）のなかで、
絶えず、「ことば」を介し、思考し、自身・他者に対し、表現をし続けている。

〔本研究の立場〕

生涯という視点と言語学習との関連づけ

学校教育



学校教育以降・環境外の
「継続的な教育過程」

時間的・空間的

問題意識（「ことば」を学ぶということ — 「生きる活動」という視点—）

欧州評議会の言語教育理念 「生涯にわたる言語学習」

「欧州言語の日（La Journée Européenne Des Langues）」（2001年9月26日）

1. 複言語主義と異文化理解を促進するために、言語学習と様々な学習言語の多様性に対して関心をもたせる。
2. 維持及び育成されるべき欧州の豊かな文化的及び言語的多様性を促進する。
3. 初等・中等教育機関，あるいは高等教育機関の内外の環境において，職業的ニーズや移動の動機，あるいは単に楽しみと交流のために，生涯にわたる言語学習を奨励する。

（Conseil de l'Europe, 2014, 筆者訳）

言語学習は、「学校教育を越え、生涯にわたり継続的に営まれる行為」ではなく、

「生涯にわたり、時間的・空間的視点から、一人ひとりの生活やそのなかの移動性を踏まえた上で営まれる行為」にある。

問題意識（「ことば」を学ぶということ — 「移動性」という視点—）

〔「移動性」＝（「移動」する存在である個々人がもつ特質）〕

「モバイル・ライブズ」を形成し、そのなかに生きている人は、「do-it-yourself的な、個人化された時間と空間のパターンのもと」で、「生の結び合わせ（コーディネーション）」を実行すること
(エリオット・アーリ, 2016/2010, p.16)

「『移動』を経験する人々の生活」、及び「流動する『ことば』と複言語・複文化能力を日常的に駆使して生きること」を常態と捉える視点
(川上, 2018, p.8)

→ 日本語学習とは,

「モバイル・ライブズ」を形成し、そのなかに生きている日本語専攻学生が取り組む学習のひとつである。

成果や結果を問わず,

日本語を学ぶ／学んだ学生は、**大学での日本語学習経験と現在の「人生のつながり」** をもっている。

問題意識（第1章：「日本語学習と人生のつながり」という問題設定）

~~これまでの日本語教育の再考~~

~~移動性という観点・「日本語学習と人生のつながり」~~

- 〔疑問〕
- 日本語専攻学生の日本語学習に対する弊害は？
 - 日本語専攻学生の「ことば」の学びに寄り添う日本語教育とは？

日本語専攻学生の「日本語学習と人生のつながり」を
移動性という観点から追究し、日本語学習の実態を捉える

外国語教育を再考する手がかり

日本語専攻学生の視点から
将来において「使うあてのない外国語学習」の意義

問題意識（第1章：「日本語学習と人生のつながり」という問題設定）

〔本研究の問い〕

- I. 日本語専攻学生（在籍生，修了生・中退及び転科者）の大学の日本語学習経験は，
どのように個々人の人生とつながっているのか。
- II. 日本語専攻学生は，フランスの国立大学の学習環境において，
どのように日本語を学んでいるのか。
- III. 日本語専攻学生が，大学時代及び大学という学習環境で，
「外国語としての日本語」を学ぶ意義とは何か。

問題意識（第1章：「日本語学習と人生のつながり」という問題設定）

〔本研究の枠組みと研究方法〕

- 現実を生きる人々の生活を「『移動とことば』という bifocal な視点」で捉えるアプローチ
(三宅・岩崎・川上, 2018, p.275-277)

→ 「生涯にわたり統合された教育」の垂直的視点（時間）・水平的視点（空間）の変容における
動態性を表す概念 (宮原, 1990, p.125)

■ 質的研究法

→ 日本語学習実態を追究するにあたり、社会・文化的文脈を考慮しつつ、
日本語専攻学生一人ひとりが有する個別性や具体性を熟視する必要性

[研究1] 第4章：人生と日本語授業（日本語ポートフォリオ実践研究）

- 分析対象 在籍生（130名）将来の職業と日本語との関連の有無，及び学習目的の明確さによる分類
→ 8編の記述内容
- 問い (a) 大学の日本語授業をどのように位置づけているか。
(b) 日本語学習と人生をどのように関わらせているか。
- 手順 SCAT (Steps for Coding and Theorization) 援用（大谷，2011）

〔第4章の示唆〕 一人ひとりの学生は，過去や未来の多様な自己（言語や文化に関する多様な過去の経験と未来への展望）を内在し，「移動」する存在であること
〔課題〕 時間的・空間的に拡大し，広い視野での検討の必要性

第4章 [研究1] 人生と日本語授業
（日本語ポートフォリオ実践研究）

第5章 [研究2] 生活と日本語学習
（在籍生への調査）

第6章 [研究3] 「移動」と日本語学習
（修了生，中退・転科者への調査）

[研究2] 第5章：生活と日本語学習（在籍生）

分析
対象

在籍生（3名）へのインタビューのトランスクリプト → 2～3回（計3～4時間半）

問い

- (a) 日本語学習，日本語使用，日本語以外の学習をどのように体験していたか。
- (b) 日本語学習の体験，日本語使用の体験，日本語以外の学習の体験をどのように意味づけていたか。
- (c) (a) (b) で明らかになった体験のプロセス，及び体験の意味づけの間にどのような関連がみられるか。

手順

構造構成主義的質的研究法（西條，2007）の科学性を担保する条件に関する考え方を援用

[研究3] 第6章：「移動」と日本語学習（修了生・中退及び転科者）

分析
対象

修了生・中退及び転科者（3名）への質問紙・インタビュー調査のトランスクリプト

問い

(a) 大学時代の学習・生活をどのように**経験**していたか。

(b) 大学時代の学習・生活経験と**現在の「生活」**にどのような**つながり**を**実感**しているか。

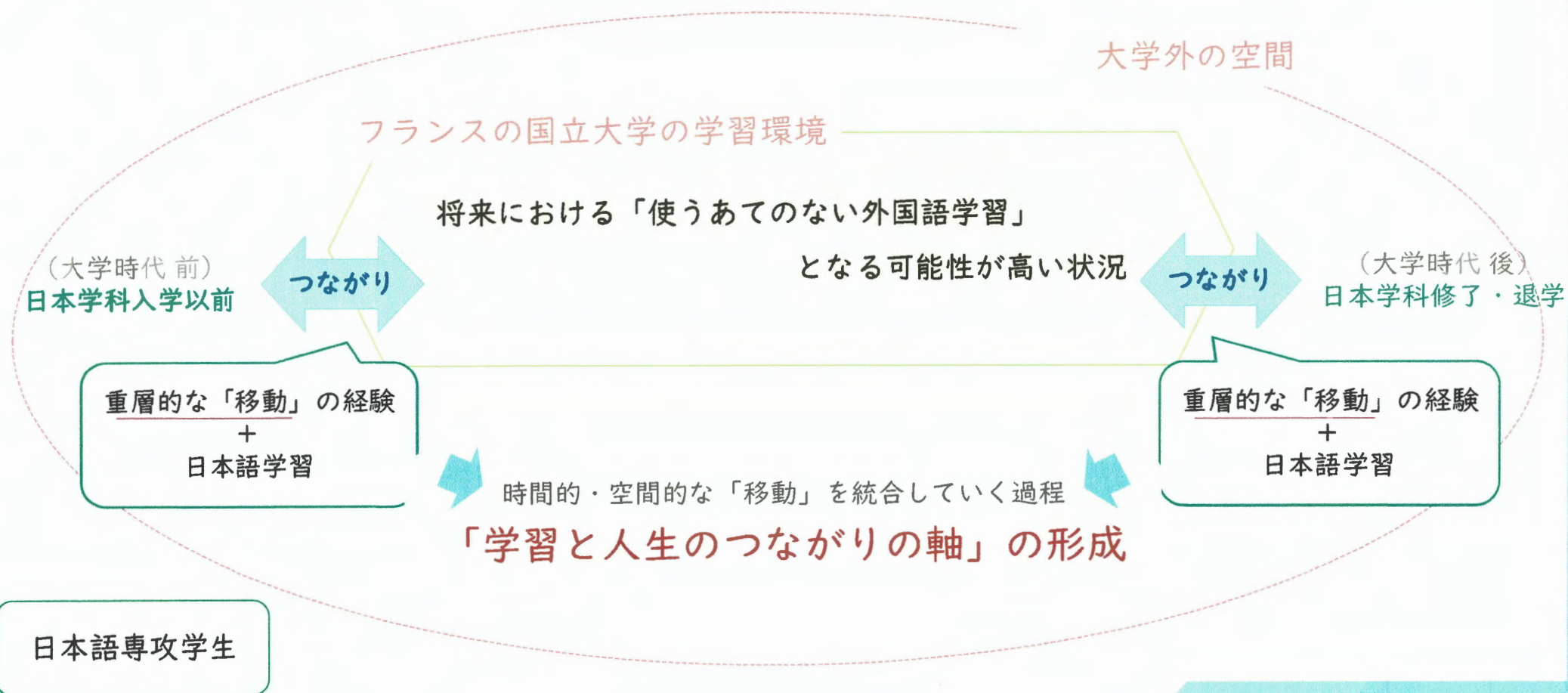
(c) 大学という学習環境における**日本語学習のあり方**に関し、どのように考えてきたか。

手順

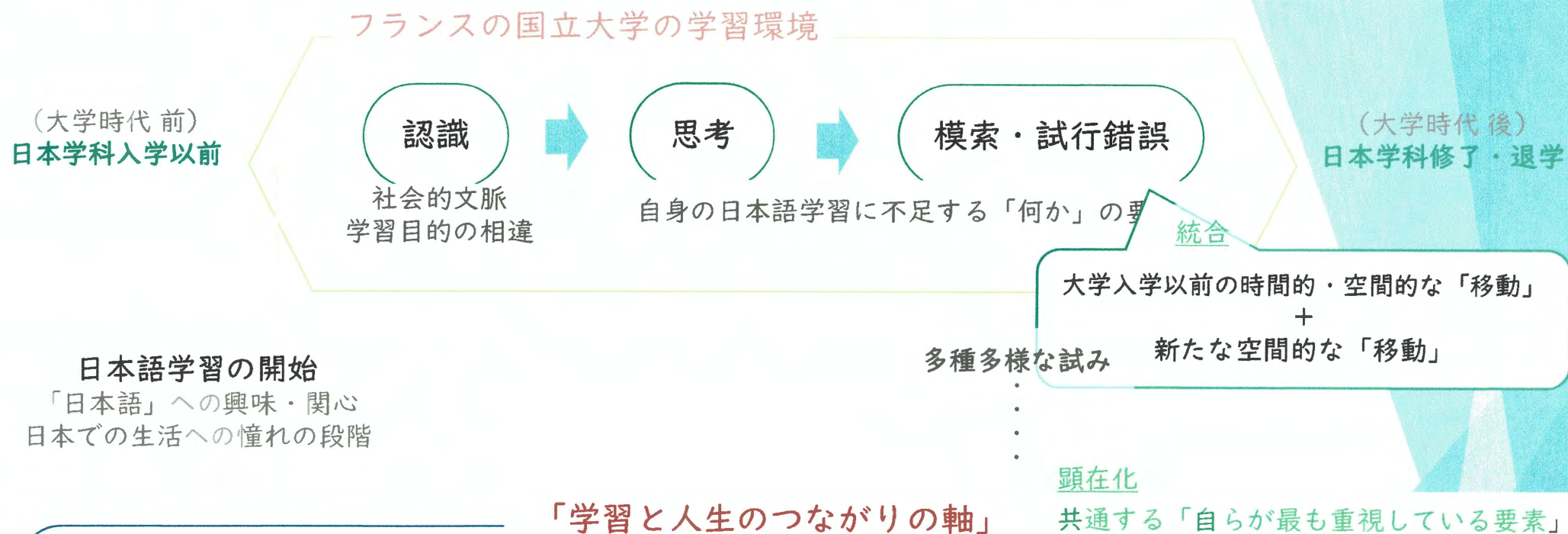
SCAT (Steps for Coding and Theorization) 援用（大谷, 2011）

第7章：総合考察 「学習と人生のつながり」から捉える日本語学習の実態

〔日本語学習経験を意味づける「学習と人生のつながりの軸」〕



第7章：総合考察 「学習と人生のつながり」から捉える日本語学習の実態



- 日本語専攻学生が「生活と日本語学習」を時間的・空間的に統合する上で、最も影響を及ぼす要素
- 学生による異なる多様な「軸」の存在
- 学習観だけではなく、人生における価値観が反映されるもの

「学習と人生のつながりの軸」の
形成



意識化

日本語専攻学生に応じた将来像の構築

日本語学習環境

- 社会的文脈や日本学科の日本語学習の意味づけにより決定されない。
- 各学生が自身の生活と日本語学習を関連づけ、人生のなかに位置づけることにより、つくり出される。

主専攻の
日本語学習
(共通)

日本語学習経験の意味づけの喪失



要因

- ◆ 日本語専攻学生が置かれている 社会的文脈 (距離的制約・労働市場の需要の低さ)
- ◆ 日本語専攻学生と日本学科における 学習目的の相違 (「学びたい日本語学習」と「提供される日本語学習」の異なり)

「学習と人生のつながりの軸」の
形成



意識化

日本語専攻学生に応じた将来像の構築

「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化



日本語学習経験の意味づけ

複数の専門分野の
学習

複数の学習継続

- ① 日本語専攻学生の日本語学習環境
- ② 日本語という「ことば」の学び

主専攻の
日本語学習
(共通)

日本語専攻学生が、大学時代及び大学という学習環境で

外国語としての日本語を学ぶ意義



人生における価値観が反映される「学習と人生のつながりの軸」を形成すること

複数言語・文化

「使うあてのない日本語学習」

日本語専攻学生が将来像を構築する上で重要な視点

日本語専攻学生に

応じた将来像の構築

単線的視点

複線的視点

「移動」の
捉え方

「日本語学習から人生を視る」視点

「人生から日本語学習を視る」視点

日本語学習者

生涯学習者（想起する）

学生

〈当該視点のみでの学習が可能である学生〉

英語専攻学生／フランスの「応用外国語コース」

・東アジア地域の日本語学習者

問い

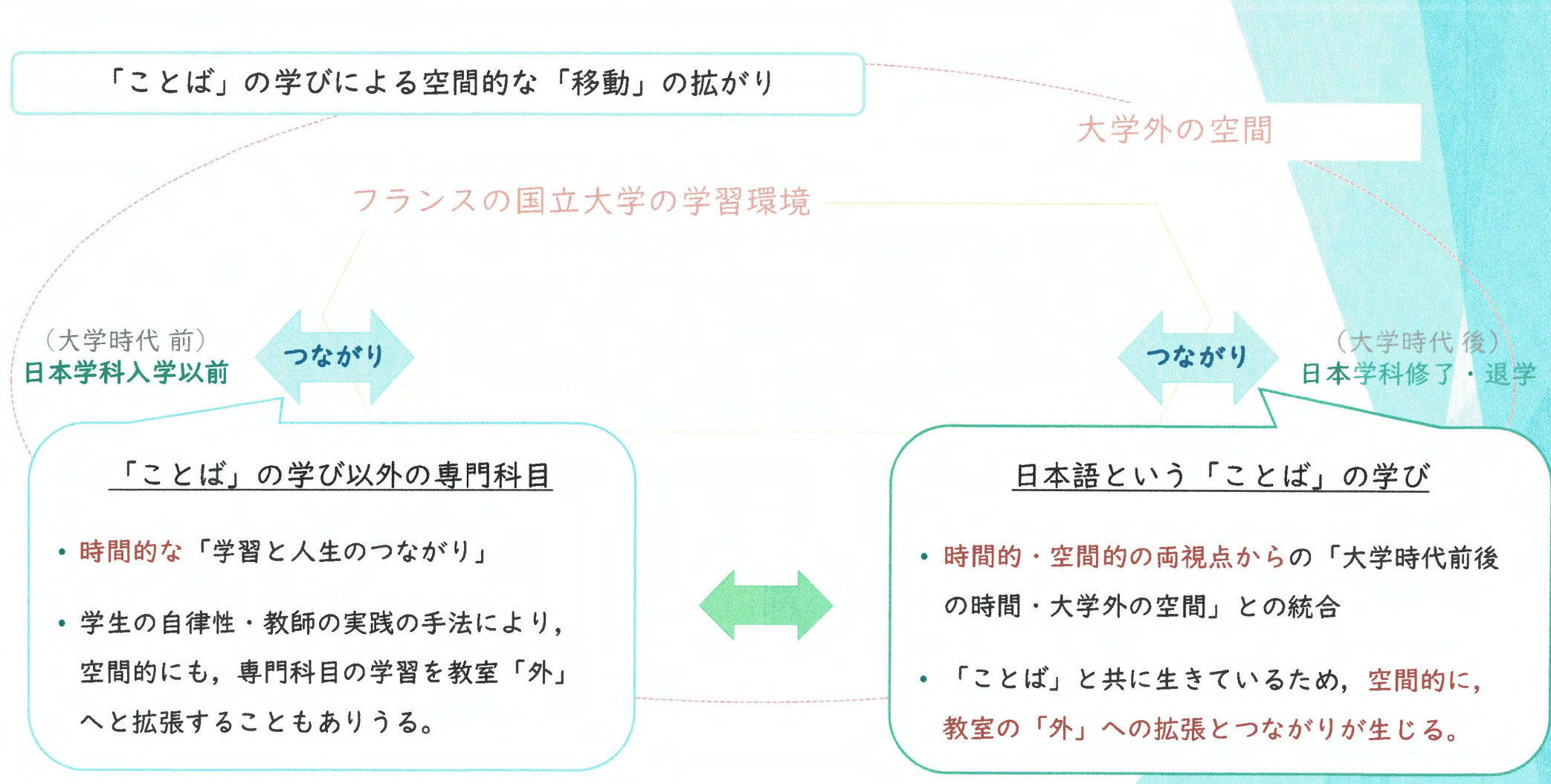
将来／現在と日本語学習との結びつきが存在するこ
とが前提とされる

例) 将来に日本語や日本に関する知識あるいは
能力を用いて何をしたいのか

将来／現在と日本語学習との結びつきが
存在することが前提とされない

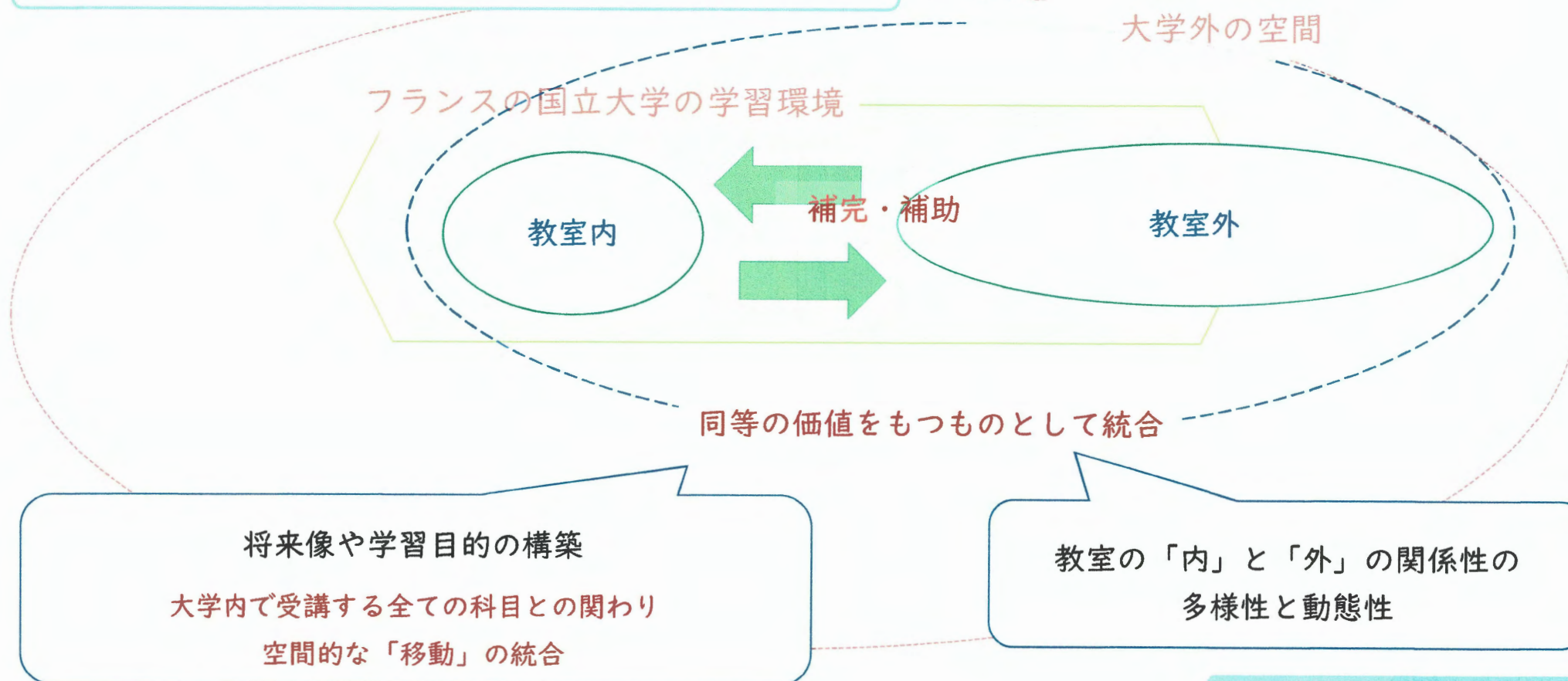
例) 自身の人生をどのように描きたいのか。
そこに何に関わるのか。

第7章：総合考察 [日本語専攻学生が外国語としての日本語を学ぶ意義]



第7章：総合考察 [日本語専攻学生が外国語としての日本語を学ぶ意義]

「ことば」の学びによる空間的な「移動」の拡がり



第8章：結論 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした外国語教育に向けて

■ 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした日本語教育

日本語専攻学生における日本語学習の取り組み

「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化という視点の必要性

日本語専攻学生／日本語教育実践者

- 将来における「使うあてのない日本語学習」
- 時間的・空間的な「移動」を通じた、将来像や学習目的の構築

第8章：結論 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした外国語教育に向けて

日本学科の視点からの「日本語専攻学生の日本語学習を阻む要因」

社会的文脈 (距離的制約・労働市場の需要の低さ) / 日本語専攻学生と日本学科における学習目的の相違

学習実態

一人ひとりが試行錯誤をするための材料

自身が希求する「日本語」とは何か / どのような環境が必要なのか

学習実態からみる 「日本語専攻学生の日本語学習を阻む要因」

「移動性」の妨げ

「自ら選択する移動」

自由な
時間的・空間的「移動」の展開

「他者から妨げられる移動」

日本学科による
学習者像や将来像への適応

日本語専攻学生の「ことば」の学びに寄り添う日本語教育に向けて

■ 日本語専攻学生に対する教育の問い直し

= 将来において「使うあてのない外国語学習」

(将来の就業あるいは学業において使用する可能性が低い「ことば」を学ぶこと)

〈日本語専攻学生一人ひとりの移動性の重視〉

● 学生の「移動」を妨げないこと

→ 自由に「移動」している日本語専攻学生を、

「日本語学習」が行われる時間・空間のなかに閉じ込めない

● 単一的／直線的な将来像へと誘導していないかを、常に省察し続けること

第8章：結論 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした外国語教育に向けて

■ 「使うあてのない外国語」の学習・教育への展開

- 国外の日本語教育と国内の第二外国語教育に類似する特徴・共通する問題



「使うあてのない外国語」を大学の主専攻あるいは副専攻として選び、学習する者
~~将来的に学習した言語を使用する環境（日常生活や学習言語を用いた職への就業）~~



大学時代・大学という学習環境で、ひとつあるいは複数の外国語を学習した経験をもつこと

自身の人生における価値観が反映される「学習と人生のつながりの軸」形成の可能性

第8章：結論 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした外国語教育に向けて

■ 「使うあてのない外国語」の学習・教育への展開

- 国外の日本語教育と国内の第二外国語教育に類似する特徴・共通する問題

日本の外国語教育における英語の重視傾向 → 第二外国語教育に共通する問題は「大学」に集約

「日本では、ほとんどの場合、英語以外の外国語を初めて学ぶ機会は大学入学以降のことで、第2外国語教育の問題は主に大学に関することになってしまう」（泉水，2009，p.44）

→日本における英語以外の第二外国語教育に表出する諸問題を解決するにあたっては、
大学で行われる教育がその責務を担っている。

第8章：結論 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした外国語教育に向けて

■ 「使うあてのない外国語」の学習・教育への展開

● 国外の日本語教育と国内の第二外国語教育に類似する特徴・共通する問題

- ◆ 青年期と成人期が重なる時期にいる外国語学習者を対象とする点
- ◆ その外国語学習者の「大学時代・大学という学習環境」における言語学習経験の意義及び本質を追究しつづける必要があるという点

→日本における英語以外の第二外国語教育に表出する諸問題を解決するにあたっては、
大学で行われる教育がその責務を担っている。

第8章：結論 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした外国語教育に向けて

■ 今後の課題

- 「学習と人生のつながりの軸」の形成と意識化をめざした外国語教育の教育現場における具現化
- 「使うあてのない外国語学習」に取り組む外国語学習者の「ことば」の学びにおける変容／
複数言語間の「移動」に関する追究
- 「使うあてのある外国語学習」と「使うあてのない外国語学習」を行き来する国際家族に育つ者に対する注目を通した「ことば」を学ぶという営みの本質に関する追究

引用文献

エリオット, A. ・アーリ, J. (2016/2010) 『モバイル・ライブズ—「移動」が社会を変える—』遠藤英樹 (監修・訳) ミネルヴァ書房. [Elliott, A. & Urry, J. (2010). *Mobile Lives*. London, UK : Routledge.]

大谷尚 (2011) 「SCAT: Steps for Coding and Theorization—明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—」 『感性工学』10 (3), 155-160.

川上郁雄 (2018) 「序章 なぜ「移動とことば」なのか」川上郁雄・三宅和子・岩崎典子 (編) 『移動とことば』くろしお出版, 1-14.

西條剛央 (2007) 『ライブ講義・質的研究とはなにか SCQRM ベーシック編—研究の着想からデータ収集, 分析, モデル構築まで—』新曜社.

泉水浩隆 (2009) 「日本 (の大学) における第2外国語教育をめぐる現状と課題—スペイン語教育を中心に—」 『学苑 (昭和女子大学近代文化研究所)』821, 43-52.

三宅和子・岩崎典子・川上郁雄 (2018) 「展望討論—「移動とことば」研究とは何か—」川上郁雄・三宅和子・岩崎典子 (編) 『移動とことば』くろしお出版, 273-293.

宮原誠一 (1990) 『社会教育論』国土社.

ラングラン, P. (1999/1989) 「I 生涯教育とは何か—概念の発展—」ラングラン, P. ・ジャービス, P. ・メジロウ, J. 他 『生涯教育とは何か—成人教育の思想と原理—』 (中京女子大学生涯学習研究所訳・編) 民衆社, 7-21. [Lengrand, P. (1989). Lifelong education: Growth of the concept. In C. J. Times (E d.), Lifelong education for adults: An international handbook. Oxford, UK: Pergamon Press, 5-9.]

Conseil de l'Europe (2014). *Qu'est-ce que la Journée européenne des langues ?*

<<https://edl.ecml.at/Home/Whatisit/tabid/1760/language/fr-FR/Default.aspx>> (2022年3月15日)

グループディスカッションテーマ

- 1) 大学時代及び大学という学習環境において、将来的に「使うあてのない外国語学習」をすることにはどのような意義があるのか。
- 2) 将来的に「使うあてのない外国語学習」を行う学習者にとって、どのような教育（視点や実践）が必要か。